



# 常一小だより

令和3年1月29日

松戸市立常盤平第一小学校

2月号

児童数 132名

学校HPアドレス <http://www.matsudo.ed.jp/tokil-e/>

## コロナウイルス禍1年

校長 平松 澄明

先週の土曜日でコロナウイルス禍が認知されておよそ1年が経過したとの報道がありました。最初は「対岸の火事」的な感覚でしたが、そこから1年いろいろなことがあり、私たちの日常に大きな影響を与えることとなりました。この1年で私たちは何を学んだのでしょうか…？

① 感染拡大防止には、「健康管理と衛生管理」が何よりも大切であること＝**凡事徹底**

3密回避・マスク着用・手洗い励行・家族全体の健康チェック・ガイドライン等の順守 など

② 他人への尊敬と思いやりは、多くの人々の心の支えとなること＝**相見互い**

医療現場の方々をはじめとした社会生活を支えてくださる皆さまへの感謝・咳エチケット・お互いの健康への気遣い・離れて会えない大切な人への気持ち など

③ 努力の積み重ねと新しい発想を育む機会となったこと＝**新しい生活様式**

検温や健康チェック・すいている時間帯の買い物・リモートワーク・学習のICT活用 など

2回目の緊急事態宣言が発令されて3週間が経ちました。ワクチン接種に向けた動きがあるものの新聞やニュース、インターネット等の毎日の報道は、人々の心をネガティブにするようなものが目立ちます。でも、その中で私たちは今日も生きています。未来ある常一小の子どもたちに、目を伏せて頭を垂れて生活させるわけにはいきません。令和2年度もあと2カ月余りとなりました。6年生の卒業という人生の大きな節目を筆頭に、それぞれの子どもたちが大切な節目を迎えます。そのためにやらねばならないことがたくさんあります。それらをやり遂げるためには、この1年間の出来事からの「学び」をいかして、顔を上げて胸を張って動き出さなければなりません。

常一小では、小回りが利く小規模校の利点をいかし、保護者の皆さまのご協力の下で『「取り戻し」の2学期』として、「全校徒歩遠足」や「スポフェス」をはじめとする様々な活動を、コロナウイルス禍の下での「学び」を基に実現してきました。これらが実現できたことは、単に活動の成功の実績だけでなく、そこで育むべき力を子どもたちに身に付けさせたり、達成感を味わわせたりすることができたことを意味します。何もしなければやり過ごしていた、リーダーシップや集団意識、異学年交流の経験など、「取り戻し」の取組みを通して、それぞれの学年段階ならではの子どもたちの「学び」の成果を上げることができました。もちろん例年に比べれば、質・量ともに違いますが、それが進級をあと2ヶ月に控えた子どもたちのこれからのまとめの学習や活動に、実感をもって生かすことができると信じています。

令和2年度のフィナーレに向けて、さらにこの1年の「学び」を子どもたちと共にいかせるよう、慎重な行動と創意工夫に努めます。「がんばろう 常一小！」

## コロナ禍で学ぶ、リモートによる小中連携（交流授業）

1月22日（金）に、本校6年生児童と常盤平中学校生徒会役員との間で、リモートによる交流授業がありました。中学生が、進学する6年生の質問に回答してくれる形式で行われました。6年生にしてみたら、未知なる中学校生活は、期待とともに大きな不安もあるのが当然です。しかし、リモートで映し出された中学生の先輩方は皆笑顔で、6年生のみなさんは質問を繰り返すうちに、進学する楽しみの方が大きくなるのを感じたようです。

PC環境に慣れている世代。そして情報社会の中で生き抜く子供たちは、確かにリモートによる授業を通し、人と人との心の交流を感じとりました。



### 大野先生に学ぶ版画の世界

版画家の大野隆司先生をお招きし、4年生の児童が初めて彫刻刀による版画作品に挑戦しました。大野先生の手にかかると、あっという間にかわいい作品が出来上がり、思わず「うわあ！」と驚きの拍手が上がりました。大野先生からは、「君たちは弟子だから、頑張りたまえ。」のお声をいただき、熱心に彫り進めた4年生でした。



### お昼の放送で聞く6年生の言葉

毎日給食の時間に流れる校内放送からは、卒業前の6年生から在校生に向けてメッセージが流れます。「あっという間の6年間なので、毎日をしっかりと生活してください。」とのスピーカーからの言葉に、椅子に座り直し姿勢を正した在校生の姿が見られました。

進学・進級を控え、それぞれの思いを胸に、春に向けて寒い冬を乗り切ろうとする子供たち。教師陣もそれに応えようと、奮闘中です。



### なわとび教室で記録更新中

休み時間になると、校庭で全校児童になわとび教室の声がかかります。体育委員会の友達に記録を数えてもらい認定されると、認定シールがもらえます。

「せんせい、これできる？」とビュンビュン技を繰り返して広げる友達もいれば、顔を真っ赤にして自己記録を更新している友達もいます。なわとびは、体の「調整力」を向上させるのに適しています。筋力、リズム感、バランス感覚、どれも求められます。是非、継続して学年の目標回数に到達できるように、ご家庭でも挑戦するのはいかがでしょうか。昇降口には、基準記録を達成した友達の名前と回数が掲示されています。

